

こんにちは、しおちゃん





おはよう
ございます
おはよう
ございます

ある日、愛ちゃんの家の前に小さな猫が捨てられていました。よく見ると、それは猫ではありませんでした。耳もないし、ひげもありません。ニャーンとも鳴きません。箱の中には、お手紙が入っていました。

「この子の名前はしおちゃんです。増えすぎて育てられません。だれか拾ってかわいがってあげてください。」と、書いてあります。飼い方の紙も入っていました。

「しおちゃんの飼い方…餌も水もいりません。家電製品や車が大好きです。

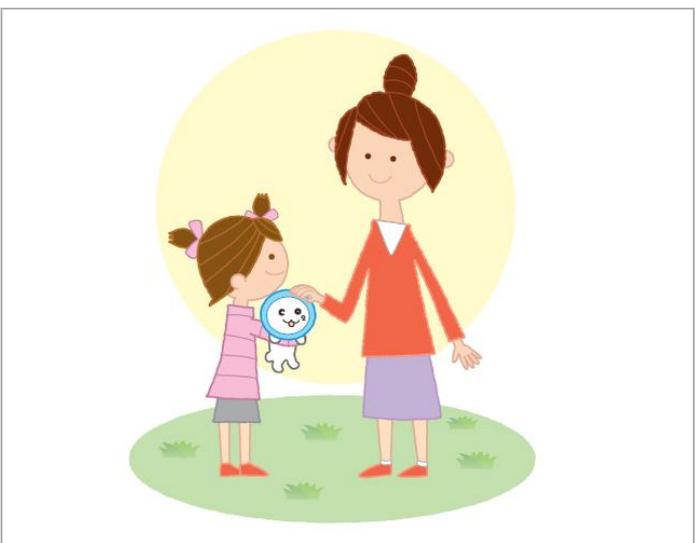
たくさん電気を使ったり、車に乗ったりすると大きくなります。」

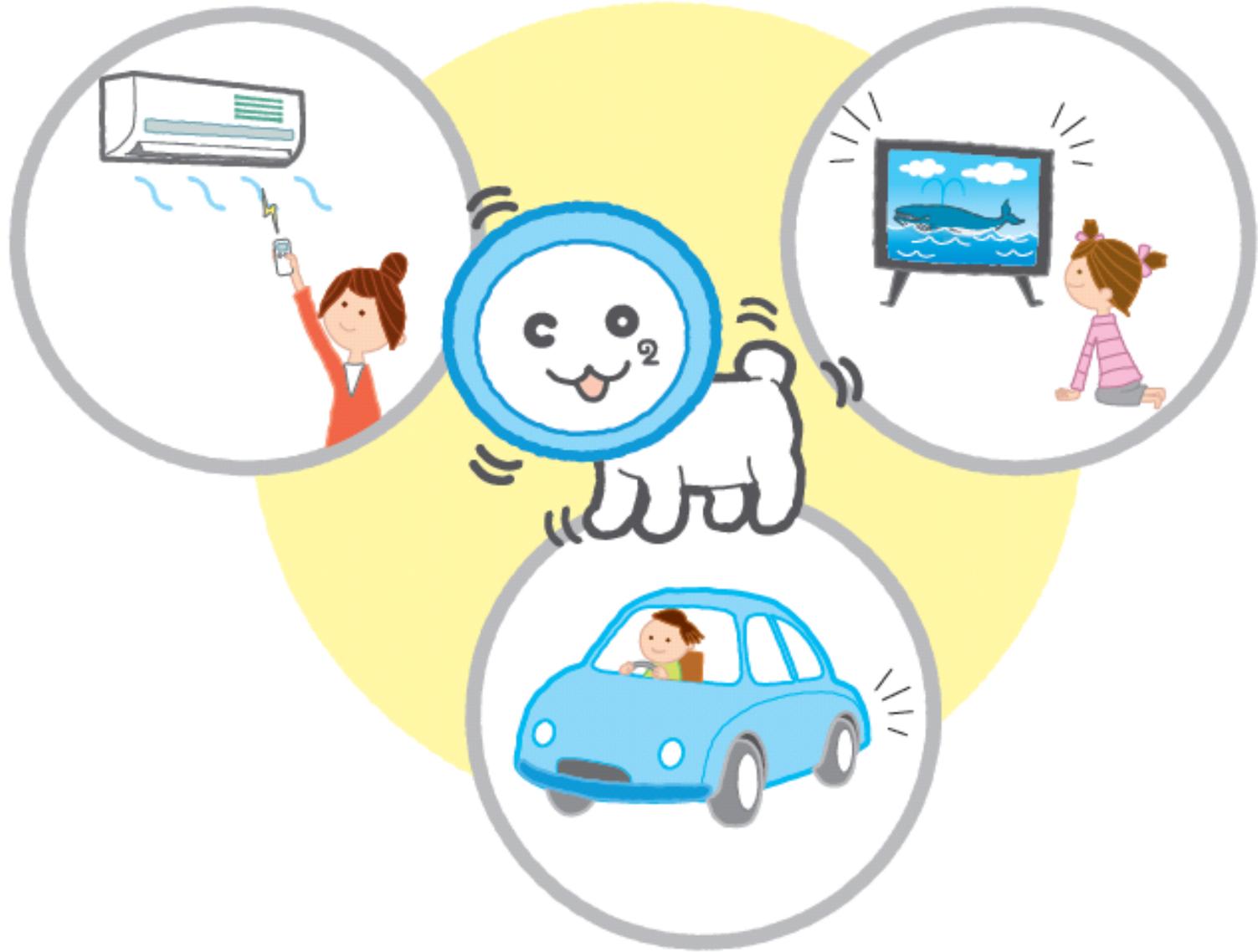




愛ちゃんはママにお願いして、
しおちゃんを飼うことになりました。
愛ちゃんとしおちゃんは、とても仲良くなりました。
遊ぶときも、寝るときも、いつも一緒です。
愛ちゃんはしおちゃんが大好きで、
しおちゃんも愛ちゃんが大好きです。

②

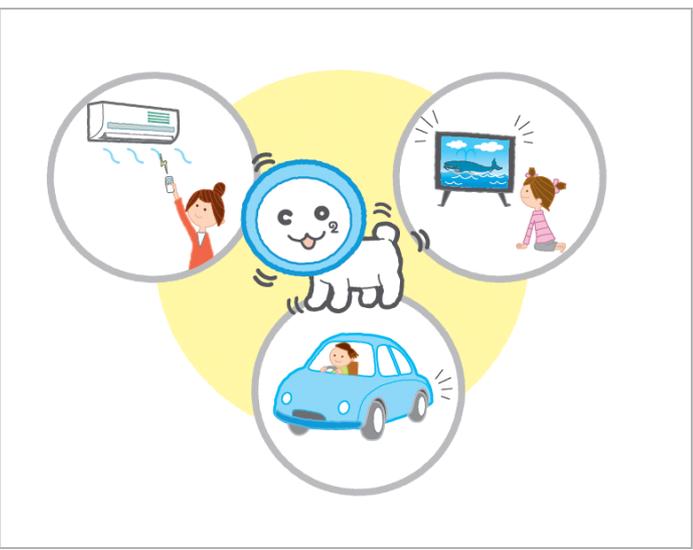




しおちゃんは、なにも食べませんが、とっても元気。
愛ちゃんがテレビをつけると、ちよっと大きくなります。
ママが暖房をつけると、またちよっと大きくなります。
パパが車に乗ると、またまたちよっと大きくなります。
愛 … 「しおちゃんは、本当に電気や車が好きなんだね！」
しおちゃんは毎日すくすくと育ちました。

そしてとうとう・・・

③





お家に入れないほど大きくなってしまったのです。

ママはびっくりしていいました。

ママ…「しおちゃん、こんなに大きくなっちゃって」

パパも不思議がりました。

パパ…「ごはんも食べないのに、

どうしてこんなに大きくなっちゃったんだろう？」

ママ…「これじゃあ、もう家にはいられないわね。

これ以上大きくなるようなら、かわいそうだけど、

しおちゃんには出て行ってもらわないと。」

と、ママ。

愛ちゃんは悲しくなりました。

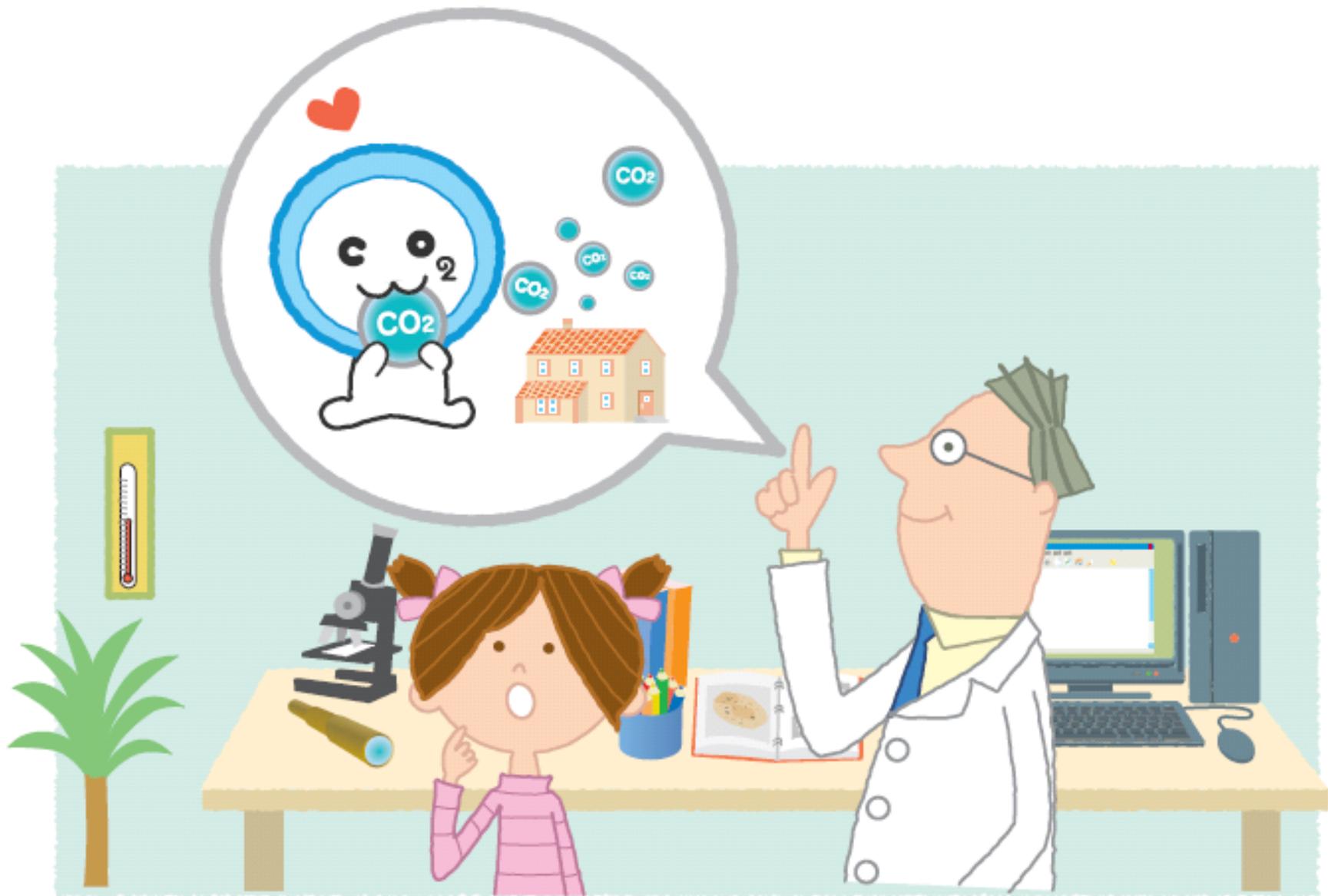
しおちゃんとは、これまでいつでも一緒だったのです。

愛 …「どうしてこんなにおおきくなっちゃったんだろう？」

ずっとずっと一緒にいたいの。」

④





愛ちゃんは、町いちばんの物知り、バイオ博士のところに相談に行きました。

愛 .. 「バイオ博士、

しおちゃんがお家に入れないほど大きくなっちゃったの。どうしたらいい？」

博士 .. 「そうか、そんなに大きくなったか。ねえ、愛ちゃん。

どうしてしおちゃんが大きくなったのか、わかるかい。」

愛 .. 「ううん。わからないの。」

博士 .. 「よくお聞き。

しおちゃんは、愛ちゃんの家から出る、

CO₂ を食べて大きくなっているんだよ。

電気を使ったり、車に乗ったり、

ごみを捨てたりする度にCO₂ が出るだろう？

それで、しおちゃんは大きくなるんだ。

愛ちゃんやパパやママが電気を使ったり、車に乗ったりして、

快適に暮らせば暮らすほど大きくなるんだよ。」

愛 .. 「えー！しおちゃんは、CO₂ を食べて大きくなっていったの！

ねえバイオ博士、しおちゃんは今、大きくなりすぎて、

家から出て行かなきゃならないの。

ずっと一緒にいるには、どうしたらいいの？」

博士 .. 「それはね、愛ちゃんたちが出したCO₂ を、

しおちゃんが食べる前に、

ちゃんと使えばいいのさ。」

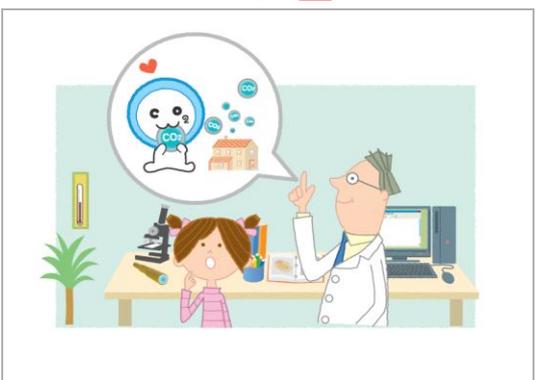
愛 .. 「CO₂ を、使う！？そんなことができるの？」

バイオ博士は、愛ちゃんに魔法の呪文を教えてくださいました。

すると、愛ちゃんの顔がぱっと明るくなりました。

愛 .. 「やってみる！」

⑤





次の日。

ママがお料理しています。

野菜くずを捨てようとする、愛ちゃんが言いました。

愛 … 「ママ、そのなまごみ、ちようだい」

ママ … 「いいけど、何に使うの？へんな子ねえ」

愛 … 「いいのいいの」

愛ちゃんはバイオ博士から教えてもらった呪文を唱えました。

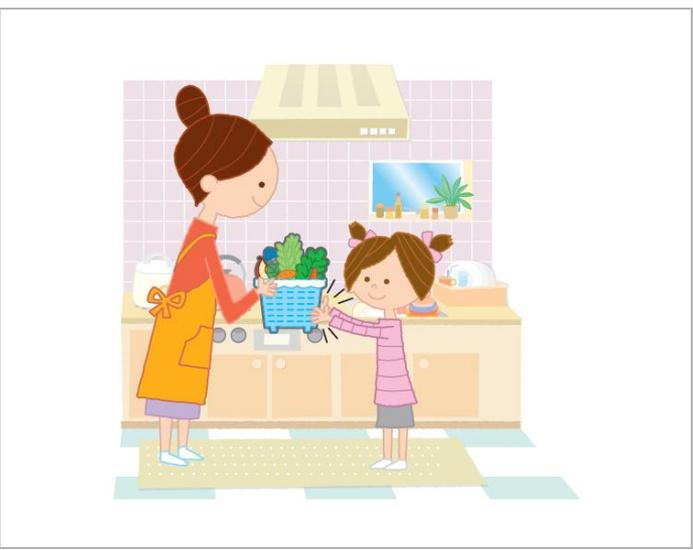
愛 … 「バイオ マスマス バイオマス♪」

すると・・・

誰も気づかないところで、

しおちゃんがちよつとだけ小さくなりました。

⑥





パパが庭の木を手入れしています。

愛 … 「パパ、その木、ちょうだい」

パパ … 「いいけど、何に使うんだい？」

愛 … 「いいのいいの」

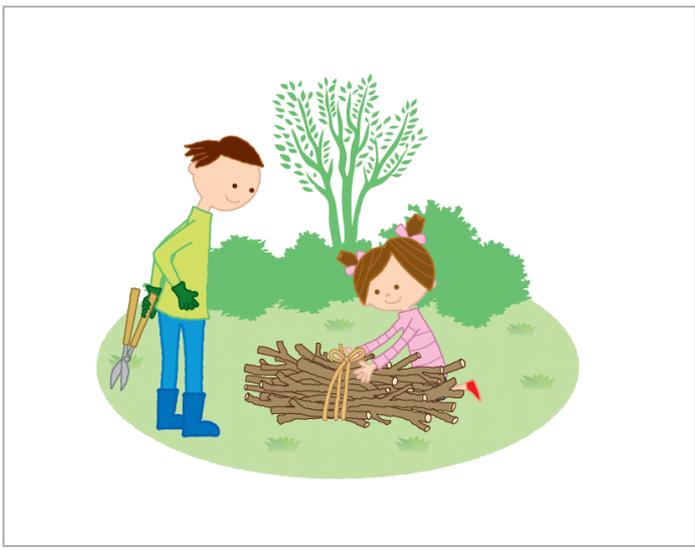
愛ちゃんは、また、

バイオ博士から教えてもらった呪文を唱えました。

愛 … 「バイオ マスマス バイオマス♪」

しおちゃんは、また少し小さくなりました。

⑦



給食室



学校で。

今日の給食は愛ちゃんの大好きな唐揚げでした。

給食のおばちゃんが、油を捨てようとしています。

愛 .. 「おばちゃん、その油、ちょうだい」

おばちゃん .. 「いいけど、何に使うの？」

愛 .. 「いいのいいの」

愛ちゃんはバイオ博士から教えてもらった呪文を唱えました。

愛 .. 「バイオ マスマス バイオマス♪」

しおちゃんは、少しずつ、小さくなっていきました。





秋になりました。

パパ… 「今年はずいぶんたくさん庭で野菜がとれたね。

そうだ、家でとれたニンジンやサツマイモを持って、
森にバーベキューしに行こう！」

ママ… 「でも、しおちゃん車に乗れるかしら？」

みんなでしおちゃんを見ると・・・





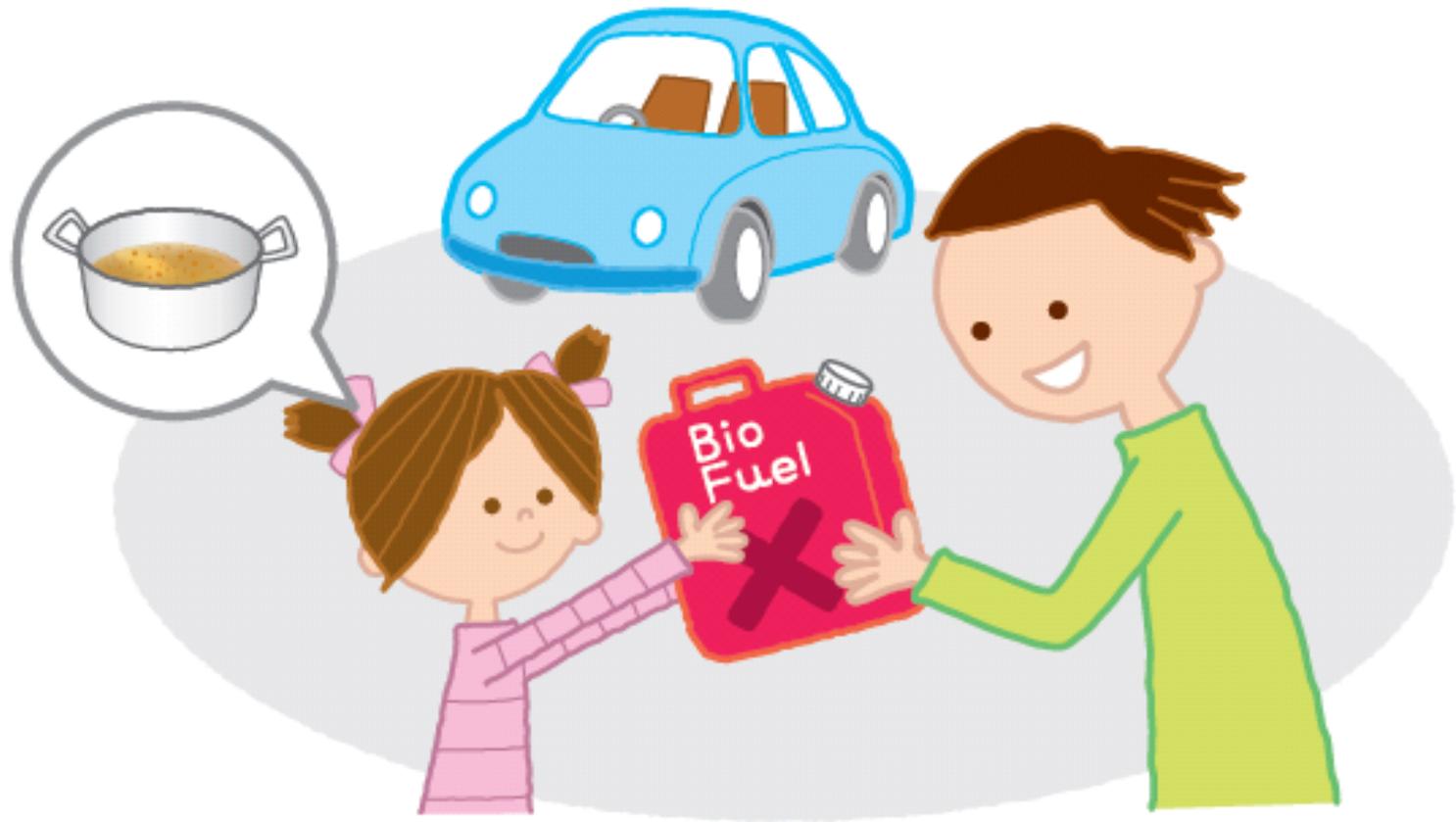
いつの間にか子犬くらいの大きさになっていました。

パパ… 「そういえば、最近、しおちゃん小さくなったよね！
どうしたんだろう？」

愛 … 「うふふ。」

⑩





今日は日曜日。

ドライブに行く日です。

今日はしおちゃんも一緒です。

愛 … 「パパ、車にこの燃料使って！」

パパ … 「何だい？バイオ燃料？これ、どうしたの？愛」

愛 … 「学校の給食の油から作ったのよ♪」

車はとっても快適に、びゅんびゅん走りました。

ママ … 「なんか、おいしそうな匂いがするわ。

愛の好きな唐揚げの匂いね。」

愛 … 「うふふ。バイオ マスマス バイオマス♪」

⑪





山につきました。

パパがバーベキューの準備をしていると

愛 .. 「パパ、バーベキューに、この燃料使って！」

パパ .. 「何だい？木質ペレット？これ、どうしたの？愛」

愛 .. 「パパが庭で切った木から作ったのよ♪」

火力もばっちりです。

パパ .. 「なんか、この燃料は調子がいいなあ。

いつものカセットコンロより、

香ばしく上手に焼けるよ」

愛 .. 「うふふ。バイオ マスマス バイオマス♪」





野菜を焼きます。

ママがお庭で育てたニンジンと、お芋です。

ママ… 「今年のにんじんは、

色もよくて、本当にたくさんできたのよね。

愛からもらった肥料を使ったのよ。」

パパ… 「うん、甘くて、とっってもおいしいよ。

このお芋も、ホクホクでおいしいなあ。

愛、肥料なんて、どうしたんだい？」

愛… 「お家から出た生ごみから作ったのよ♪」

ママ… 「おやまあ！」

パパ… 「どうやって!？」

愛… 「それは、しおちゃんのおかげ。」





パパ… 「しおちゃん？」

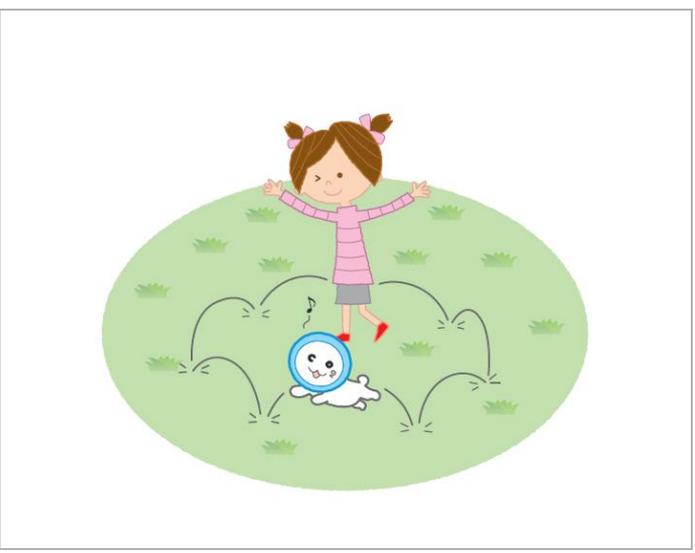
ママ… 「そういえば、ずいぶん小さくかわいくなったわね」

不思議そうなパパとママの横で、愛ちゃんは得意そうに、
元気に飛び回っているしおちゃんを見ました。

しおちゃんは、拾った頃の子猫の大きさに戻っていました。

愛… 「魔法の呪文で、いつまでも一緒だよ、しおちゃん。」

⑭



おわり

